



Takashi Sato Schubert-Zyklus

# 佐藤卓史 シューベルトツィクルス

ピアノ曲全曲演奏会

第10回 舞曲Ⅱ

— 最初のワルツ —

---

---

フランツ・シューベルト:

3つのドイツ舞曲 D972

36のオリジナル舞曲 D365 (作品9) (「最初のワルツ」)

2つの舞曲 D980A [断片・佐藤卓史による補筆完成版]

エコセーズ 変ホ長調 D511

ドイツ舞曲 変ト長調 D722 (1821)

12のワルツ、17のレントラーと9つのエコセーズ D145 (作品18)

6つのレントラー D970

2つのレントラー D980C [断片・佐藤卓史による補筆完成版]

8つのエコセーズ D977

6つのエコセーズ D421 (1816)

---

---

2019年 4月 5日(金) 18:30開場 19:00開演

東京文化会館小ホール

入場料(全席自由):一般4,000円 学生2,000円

design by MAI KUDO

後援: 株式会社ヤマハミュージックジャパン 鍵盤・管弦打営業部 プレミアムピアノ推進室 ベーゼンドルファー・ジャパン、  
株式会社河合楽器製作所、島村楽器株式会社、月刊ショパン、一般社団法人日本ピアノ調律師協会、  
一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)、国際フランツ・シューベルト協会、フランツ・シューベルト・ソサエティ、  
東京藝術大学音楽学部同声会、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校響親会

マネジメント・お問い合わせ: アスペン 03-5467-0081

チケット取扱: アスペン 03-5467-0081 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:133-183)

Aspen

## 佐藤卓史シューベルトツィクルスとは・・・

第11回シューベルト国際ピアノコンクールの覇者佐藤卓史が2014年にスタートした、フランツ・シューベルトのピアノ関連器楽曲(独奏曲、連弾曲、室内楽曲)のすべてを網羅的に演奏するプロジェクトです。最新の研究成果を駆使しての知的な洞察、独自の観点からの未完作品の補筆など、作曲家への愛情と共感に溢れた新しいシューベルトの世界を提示しています。

### 使用楽器は「ベーゼンドルファー・インペリアル」。

ベーゼンドルファー社はシューベルトが他界した1828年にウィーンで創業、以来世界有数のピアノメーカーの一角に君臨し続けています。昔ながらの手づくりでこだわり、鉄骨フレームではなく木製の外枠で弦の振動を増幅させる設計は、他のピアノとは全く異なるベーゼンドルファーだけの特徴。これによって生まれる優しくまろやかな音色は「ウィンナ・トーン」と呼ばれ、シューベルトに代表されるウィーンの音楽との相性は抜群です。なかでもフラッグシップモデルの「290」は、通常のピアノよりも低音域が9音拡張され、97の鍵盤を持つ超大型コンサートグランド。拡張された9鍵は、通常使用されることはありませんが、低音弦の共鳴が深く温かい響きをもたらす、「インペリアル」の愛称で知られています。



### 103曲もの舞曲を一挙に演奏する「舞曲づくし」!

記念すべき第10回公演で取り上げるのは再び「舞曲」です。シューベルトが生前、舞曲作曲家として大成功を収めていたことは第5回「舞曲I」でご紹介した通り。今回は、シューベルトの舞曲集で初めて出版された「最初のワルツ」こと「36のオリジナル舞曲」(作品9)と、それに続く「12のワルツ、17のレントラーと9つのエコセーズ」(作品18)を主軸に、同時期に作曲されたものの曲集に収録されなかった舞曲まで、なんと合計103曲を一挙に演奏する「舞曲づくし」の一夜。断片的なスケッチしか残っておらず、演奏されることのなかった幻の舞曲D980A・D980Cも佐藤卓史の手で補筆完成され、今回初めて音になって皆様の耳に届きます。春の宵、200年前の舞踏会に思いを馳せながら、「舞曲王」のダンス・チューンに浸ってみませんか。

詳しくは連動ブログで!

シューベルトティアーデ電子版

検索



## Profile

### プロフィール●佐藤卓史(さとう・たかし)

1983年秋田市生まれ。高校在学中の2001年、第70回日本音楽コンクールで第1位。東京藝術大学を首席で卒業後渡欧、ドイツ・ハノーファー音楽演劇大学ならびにウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。その間国際舞台においてめざましい活躍を遂げ、2006年ミュンヘンARD国際コンクール特別賞、2008年シドニー国際コンクール第4位ならびに最優秀ショパン演奏者賞、2010年エリザベート王妃国際コンクール入賞、2011年カントウ国際コンクール第1位、メンデルスゾーン国際コンクール最高位など受賞多数。とりわけ2007年第11回シューベルト国際コンクールでの優勝と、その後の世界各地での演奏活動によりシューベルト弾きとしての国際的な名声を獲得した。

指揮者ジョナサン・ノット氏の指名により、同氏の東京交響楽団音楽監督就任披露演奏会においてソリストを務めたのをはじめ、NHK交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、シドニー交響楽団、ベルギー国立管弦楽団など内外のオーケストラと多数共演。

ウィーン楽友協会、ルクセンブルク国立音楽院などのヨーロッパの主要コンサートホールのほか、2011年にはシリア・ダマスカスのダール・アル・アサド文化芸術劇場でソロリサイタルを開催。2013年にはデビュー10周年を記念してリサイタルツアー「ベートーヴェン 4大ピアノ・ソナタを弾く」を実施、全国16都市で演奏し好評を博した。

2007年にデビューアルバム「ラ・カンパネラ～珠玉のピアノ小品集」(ナミ・レコード)をリリースして以来、レコーディング活動にも積極的に取り組んでおり、シューベルト作品集(ドイツ・BELLA MUSICA)、ショパン作品集(ナミ・レコード)、ブルクミュラー作品集(ナミ・レコード)、ベートーヴェンソナタ集(Tactual Sound)など多数のソロアルバムを発表。佐藤俊介と共演したCD「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集」(ナミ・レコード)は第62回文化庁芸術祭大賞に輝いた。放送出演も多く、NHK「ららら♪クラシック」「クラシック倶楽部」「ベストオブクラシック」をはじめ、現在はBSテレ東「おんがく交差点」(土曜朝8:00～)にレギュラー出演中。室内楽、作編曲など多方面で活躍している。国際フランツ・シューベルト協会会員。

公式サイト [www.takashi-sato.jp](http://www.takashi-sato.jp)

